

東京芸術劇場

社会共生セミナー

A&Iセミナー
Accessible & Inclusive
Theatre

あらゆる人にひらかれた劇場、あらゆる人が享受できるアーツをめざして

第2回

ろう者の“オンガク”～
もし世界中の人があろう者だったら、
どんな形の音楽が生まれていた？



9 / 18 土
14:00 - 16:00

東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre

A&Iセミナー Accessible & Inclusive Theatre

社会共生セミナー

東京芸術劇場

障害者と健常者、ろう者と聴者など、人々を区分して、マイノリティを外側に押しやりがちな社会に私たち生きています。違いを肯定する眼差しを持ち、他者を認め合い、誰もが生きやすい社会をつくるにはどうすればよいでしょうか。

東京芸術劇場では、こうした社会課題の解決と共生社会の実現を目指して、参加者の皆さんとともに学び考えるセミナーシリーズを開催します。

第2回

ろう者の“オンガク”～
もし世界中の人があれがろう者だったら、どんな形の音楽が生まれていた？

9／18 土 14:00—16:00

オンライン
ZOOM
開催

ろう者はどのように音楽を知覚するのだろうか？音楽を視覚で捉えると何がみえてくるのだろうか？音楽の普遍性と根源について、ろう者と聴者が共に考えます。講師は、共同監督映画『LISTEN リッスン』、「目で生きる人たちのオングクワーカショップ」（一般社団法人エル・システムジャパン）などを通して新たな視点を提示する牧原依里と雲境、そして、サウンドスケープを実践する音楽家ササマユウコの3名です。

東京芸術劇場『ポンクリ・フェス2021』のデイタイム・プログラム「音のない“オングク”的部屋」（10月2日開催）とのコラボ企画です。

手話通訳（小松智美、田中結夏）
UDトーク付

出演者

まきはら えり
牧原 依里

映画作家。ろう者の「音楽」をテーマにしたアート・ドキュメンタリー映画『LISTEN リッスン』(2016)共同監督。2017年には東京国際ろう映画祭を立ち上げ、仏映画『ヴァンサンへの手紙』の配給宣伝など担う。「育成×手話×芸術プロジェクト」で、ろう・難聴当事者の人材育成と、ろう者と聴者が集う場のコミュニティづくり等を行っている。

だけい
雲境

艶の舞踏家。1996年～2001年日本ろう者劇団に在籍。1997年舞踏家・鶴山欣也（舞踏工房 若衆・主宰）の誘いを受け、舞踏を始める。2000年ユニット・グループ「雲」を旗揚げし、国内外で公演・ワークショップを行う。2013年映画『わたしの名前は…』出演、2016年映画『LISTEN リッスン』を牧原依里と共同監督、小野寺修二演出作品等に出演するなど多岐にわたって活動。2019年舞踏をベースにした身体表現を模索するユニットグループ「濃淡」結成。

ササマユウコ

音楽家。東日本大震災を機に、サウンドスケープを「耳の哲学」として思考実験や対話の場をつくっている。2011年～2013年弘前大学大学院今田匡彦研究室社会人研究（サウンドスケープ哲学）、2014年芸術教育デザイン室CONNECT設立・代表。空耳図書館コレクティブ（2021）、艶CODA聴「対話の時間」、「即興カフェ」プロデュース、地域作業所カブカブ新井一座音担当、映像、執筆活動等。2000年代のYuko Sasama作品はN.Y.より世界72ヵ国で配信中。

料 金

無料

定 員

100名 ※先着順・要事前申込み オンライン

お申込方法

下記よりお申込みください。

申込みフォーム

<https://willap.jp/p/geigeki/AIseminar0918/>



※応募時に登録するメールアドレスが受信制限設定をされている場合は、「@geigeki.jp」からのメールを受信できるようご設定ください。

受信制限設定をしていると、申込み受付メールをお受け取りいただけない場合がございます。

※お申込み時にいただく個人情報は、本企画以外の目的には使用しません。

【締切】 2021年9月10日(金)

お 問 合 せ

東京芸術劇場 事業企画課 事業調整係 社会共生担当 03-5391-2116 accessible@geigeki.jp

主 催

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

協 力

一般社団法人エル・システムジャパン

東京芸術劇場

Tokyo Metropolitan Theatre